

江戸期の金沢城下図

表紙の現在の地図と見比べてください!

江戸期の城下地図と現代の地図を見比べると、道路網や街区割りが殆ど変わらないことが分かる。戦後も、江戸期の市街地の広がり範囲で金沢の都心の営みが続けられている。

建築文化拠点施設

2019年夏開館 谷口吉生設計

金沢の建築文化を発信する拠点として
金沢出身の建築家・谷口吉郎生家跡に整備。



「延宝年間(1673年~1681年)金沢城下図」 金沢市立玉川図書館近世史料館

金沢の建築集

歴史が積層する金沢都心域の建築群を巡る



監修: 水野一郎金沢工業大学教授 発行: 金沢市企画調整課
※この地図は掲載した建築物の場所を特定するものであって
それ以外の箇所は簡略化してあります。

建築の視点でみた 金沢という街

1.各時代の名建築を味わえる金沢

金沢には江戸時代の前田家ゆかりの建築や城下町に蓄積された町家、そして明治時代のレンガ建築や洋館、大正や昭和の近代建築、そして最新の現代建築も存在しています。

◇歴史的重層性 — 緩変都市の成果

金沢は建築やまちなみだけでなく、生活、営み、美術工芸、芸能、食など多くの分野に江戸、明治、大正、昭和そして平成のものを残しています。日本の多くの都市が明治維新や殖産興業、大きな災害や戦災、外力導入や高度成長などによる大きな激変を経て現在に至っていますが、金沢はそれらの激変を経験することなく、自前の力でゆっくり時代の後に付いて行きましたので、都市を一変させるよりも、内部に各時代の成果を蓄積してきました。各時代の層が年輪のように見えることからバウムクーヘン都市とも言えます。

◇保存と創造

歴史的な重層性という金沢の特徴を維持発展させていくためには、過去の優れた財産を保存・継承していくことと、今後の新しい層を創造し、付加していくことの両面が必要です。建築でいえば、我々の役割は江戸、明治、大正、昭和の優れた建築やまちなみを保存、再利用することと、我々の時代の建築や都市を創造することです。

2.各種の建築が混在している金沢

金沢市の旧市街地である現都心には江戸から現在までの建築や界隈がせめぎ合うように混在しています。また、近代都市計画の用途地域割制とは異なり、居住、商業、工業などが区分されず混在しています。

◇モザイク状分布の都市

混在しているがゆえに、金沢の街を歩くと、江戸の歴史的建築と現代建築が並んでいたり、高層ビルと木造町家が隣りあったりするのに出会います。空から金沢の街を俯瞰するとモザイク模様に見えるようです。すなわち金沢は時間的にはバウムクーヘン都市であり空間的にはモザイク都市です。

◇調和と対立の景観形成

金沢市は日本中が戦後復興で新しい都市を構築していた時代に、いち早く伝統環境保存条例を制定し、さらに強力な景観条例を推進してきました。異なる時代の建築、異なる用途の建築が併存するために、いかに互いに敬意を払い、調和を生み出すのか、そしてお互いに個性を発揮できるのかに意を砕いてきました。まだまだ試行錯誤を重ねていかねばなりません。

3.立地基盤となる金沢の地理と気象

金沢は山岳、平地、海浜を有し、また雨雪が多い気象地であり、このことは建築やまちづくりに大きく影響しています。

◇2本の川と3つの段丘

市域は1000m前後の山岳から低丘陵地が伸び、平地において海に至ります。山岳から発した2本の川(犀川と浅野川)は丘陵を削り、3つの段丘(卯辰山、小立野、寺町)を生みしました。金沢は城を両河川に挟まれた小立野台地の先端に築き、それを中心に都市を構築しました。



◇水と緑と坂道と

都心域を挟む2本の川は50本の用水を生み、3つの段丘の斜面は豊かな緑の壁となり、都心に潤いを持たせています。平地と段丘を結ぶ坂道が、眺望、俯瞰など変化のある景観を生みしました。

◇平地はにぎわいの中心地

城下町を支えた居住、商業、手工業、宿泊などの主機能は北國街道を軸に形成されました。今でも当時の街路や町割りが色濃く残っています。

4.都市構造

金沢は城下町都市構造を残しながらも、北陸の中核都市として機能するために新たな副都心を築き、構造転換を図っています。

◇一点集中型の城下町

城下町は仰ぎ見る城郭を中心に壕を巡らせ、四方に道が伸び、同心円状に権力のヒエラルキーを整え、幹線道路沿いに繁華街を築きました。金沢は昭和初期までほぼこの都市構造を維持しながら各時代の要請に対応してきました。明治維新時には藩所有の城とその周囲が民間に払い下げられず、国、県、市の行政・教育・軍事施設などに供されたことは戦後の都市整備に大いに役立ちました。

◇保存と開発共存の軸状都市へ

戦後の中核都市としての成長は旧市街地である都心に大規模なビルと大量の車交通を呼び込み、金沢の個性である町家、屈曲組街路、用水網などを蚕食してきました。そこで県と市は金沢駅から港まで50m道路を通し、JR線を立体交差化することで新機能の受け皿ゾーンを開発し、旧市街地の歴史的な重層性の保存と両立させました。この計画により金沢は一点集中型から軸状の都市構造転換が進行しました。

◇木造都市へ

金沢にはまだ木造町家が6000余軒残っています。日本の都市計画では都心の不燃化は基本方針であり、金沢の都市計画も都心には防火、準防火の地域指定をしているので、木造の町家は存続できません。こうした不燃化と木造都市の共生という課題への挑戦が金沢には必要になっています。



都心軸をつくり都心域拡張の開発と伝統の継続との両存を計る

江戸期 前田家遺産

成巽閣

国重要文化財(昭和25)
国文久3年(1863)

金沢市兼六町1-2
☎076-221-0580
営/9:00~17:00
休/水曜



兼六園の南隅に12代藩主前田斉泰が生母真龍院の隠居所として建てた。1階は華麗な謁見の間、広間、茶室清香軒、拈梁を用いた広縁などの豪華な公的空間である。2階は群青、書見、網代など数寄屋風の趣味を散りばめた私的諸室がある。公と私の対比や母へのあふれる優しさなど味わい深い。



石川門

国重要文化財(昭和25)
国天明8年(1788)
金沢市丸の内1-1 ☎076-234-3800
営/7:00~18:00



金沢城の搦手門で表門、多門櫓、渡り櫓、菱櫓、太鼓塀などからなる升形門である。沈床園から仰ぐ石垣の上に建つ漆喰白壁、なまこ壁、鉛瓦屋根、唐破風出窓の美しさは金沢城の絵姿である。升形内側の四面の石垣や建築もさまざまな意匠が採用されている。

長町界隈には中・下級武士の屋敷が並んでいた。今は、石積、土塀、長屋門、庭木の松、用水などの街路空間が美しく維持されている。金沢市内には寺島蔵人邸や越村邸などいくつかの武家の屋敷と住宅も残っている。

長町武家屋敷跡

国江戸時代

三十間長屋

国重要文化財(昭和32)
国安政5年(1858)

軍備用の土蔵であり、戸室石積の基壇の上に深間3間桁行 36.5 間の2階建て。壁は1階腰部をなまこ壁、その上部を漆喰白壁とし、屋根や庇は鉛瓦を葺く。裏側の立面には城下からの見映えを意識したのか入母屋の張り出しや唐破風の出窓がある。



金沢市丸の内
金沢城公園内
☎076-234-3800
営/9:30~15:30
休/不定休

夕顔亭(兼六園)

国県指定文化財(平成元)
国安永3年(1774)

金沢市兼六町(兼六園内)
営/10:00~15:00



兼六園の蓮池庭にある茶室夕顔亭は10代藩主前田治修が建てた。茶室、控間、水屋、給仕間の4室からなる数寄屋で控間の床袖壁に夕顔の透かしがある。庭に向かって開放的な雁行の平面と2つ並べた芽葺き宝形屋根を持つ外観には、楽しい空間を造ろうとした自由な姿勢がうかがえる。

寺町寺院群

国重要伝統的建造物群保存地区(平成23)
国江戸時代



卯辰山麓寺院群

国重要伝統的建造物群保存地区(平成23)
国江戸時代



都市域端部の浅野川大橋を渡った先の卯辰山麓に50を超す寺院が建つ。屈曲した細い坂道を辿るとさまざまな宗派の寺院に出会う。赤い門にわらじがぶら下がる全性寺や鬼子母神で知られる真成寺など個性があり、昔は祭事が切れ目なくあったテーマパークのようなだったという。

大乘寺

国仏殿:重要文化財(昭和58)、
総門・山門・法堂:県指定文化財(昭和57)
国仏殿:元禄15年(1702)井上平七郎浩吉造
金沢市長坂町ル10 ☎076-241-2680



元禄年間(1688-1704)に整えられた曹洞宗寺院建築の七堂伽藍である。中心となる重要文化財の仏殿をはじめ、法堂、庫裏、僧堂、絡門、山門など緑多い静かな伽藍を巡る参拝は心鎮まる深い存在感を味わせてくれる。

江戸期 城下町(町家・商家)

ひがし茶屋街

国重要伝統的建造物群保存地区(平成13)
国文政3年(1820)



都心域端部の浅野川大橋を越えた地に、藩公認で整備された茶屋街である。特に許された背の高い2階建てが建ち並び、隣家と壁を共有するかのようには密着しており1街区の30軒以上が連なる木造一軒家のようなものである。各軒は中庭や吹き抜けを持ち、通風、採光、雪下ろしなどを可能にしている。木虫籠(きむすこ)と呼ばれる格子を今でも全戸が継承しているのでまちなみ景観が守られている。



主計町茶屋街

国重要伝統的建造物群保存地区(平成20)



浅野川大橋の都心側に明治に入ってから生まれた茶屋街である。従って、3階建てがあるなど「ひがし」や「にし」に比して統一感はないが、浅野川沿いの表通りから一歩奥に入ると狭い密やかな歩道が巡らされ更にその歩道の先の「くらがり坂」を上ると神社に至るなど物語性の高い空間がある。



にし茶屋街

国文政3年(1820)



都心域端部の犀川大橋を越えた地に、藩公認で整備された茶屋街である。切妻平入りで開口が狭く奥行きが長く中庭を持つ平面で1階は木虫籠(きむすこ)と呼ばれる紅殻格子が付き閉鎖的、2階は高町家で客室が並び開放的な縁側が付くという茶屋建築である、この建築の中で三味線、笛、太鼓、舞踊などの芸も受け継がれている。

立野家住宅主屋・土蔵

国市指定保存建造物(昭和58)、
市指定文化財(平成15)
国19世紀初期、昭和7年増改築

藩政期に大工が多く住んでいた職人町にある伝統的な豊職の作業場である。間口4、5間の大型商家で1階の底下にサガリが付き、残されている部戸を上げると畳の作業場が現れるといった典型的なスタイルを有する。建築と業いが一体的に整合した博物館で見られるような関係が今でも存在している。



金沢市大工町37
☎076-221-5269
営/9:00~18:00
休/不定休



高木糴商店

国市指定保存建造物(平成14)
国江戸末期

金沢市東山1-9-3
☎076-252-7461
営/9:00~19:00
休/なし 年中無休



間口6間強で2階建ての大型商家。外観は1階に部戸が入り閉鎖と開放を可能とし2階は丈が低く、防火対策の漆喰壁と袖壁を持つ。圧巻はインテリアで、麹製造、販売の土間、板の間、吹き抜けがあり水場、釜場が備わり、樽、盆、箱などが並んでいて金沢の豊かな食文化を支える糴づくりの空間としての緊張感が魅力的である。



金澤町家情報館

国市指定保存建造物(平成元)、
金沢都市美文化賞(平成29)
国1864年、2016年9月改築

金沢市茨木町53 ☎076-208-3231
営/9:00~17:30 休/水曜



旧森紙店

国市指定保存建造物(昭和58)
国江戸末期

金沢市野町1-2-34
問い合わせ先
金沢市文化スポーツ局 文化財保護課
☎076-220-2469



戦後も数多く残っていた木端葺きの石置屋根はこの森紙店しかなくなってしまった。都市計画道路の拡巾のために曳家が行われたのを機会に修復再生の工事が行われている。どのような姿で公開されるのか期待が膨らむが、このような町家の保存、再利用は金沢のテーマの一つである。

俵屋

国市指定保存建造物(昭和60)
国江戸末期頃とされる

金沢市金沢市小橋町2-4
☎076-252-2079
営/9:00~18:00(日曜のみ17時まで)
休/年末年始

飴屋を天保元年(1830)に創業した老舗で建築も幕末期と推測できる。間口6.5間奥行11間の大型商家で2階の丈は低く、1階にさがり、部戸、格子が付く典型的な正面を有する。のれんのある名店として金沢のグラビアを飾っている。



明治・大正・昭和

尾山神社神門

国重要文化財(昭和25)
国明治8年(1875)棟梁 津田吉之助設計

金沢市尾山町11-1
☎076-231-7210
営/9:00~17:00
(受付対応)
休/年中無休



明治に入り再び加賀の力を取り戻すべく藩祖利家を祀る尾山神社に建設された神門である。地元の進取の気性あふれる技師による和漢洋の混在デザインは当時評判は賛否分かれたという。それが国指定の重要文化財であり、金沢のグ Labiaになっていることはおもしろい。



元は明治から大正にかけて陸軍の兵器庫として建てられた3棟のレンガ造建築で、平成に入り博物館に改修、再利用された。倉庫だったとはいえ、構造堅固、意匠端正、3棟並びの迫力を備えており、それゆえの再利用であり、重要文化財指定である。当時の建設の姿勢に敬意を表したい。



金沢市出羽町3-1
☎076-262-3236
営/9:00~17:00
休/年末年始、不定休
(資料整理期間)



石川県立歴史博物館

国金沢都市美文化賞(昭和62)、
中部建築賞(昭和62)、
重要文化財(平成2)
国第3棟1909年、第2棟1913年、
第1棟1914年

旧ウィン館

国市指定保存建造物(昭和58)
国明治24年(1891) T.C.ウィン設計

金沢市飛梅町1-10
☎076-231-7386
営/4~11月の月曜9:00~12:00
休/土曜、日曜、祝日



布敷を目的に明治18年に金沢にきた米国人宣教師ウィン夫婦の自邸。木造2階建てで下見板張りペンキ仕上げ、1~2階にベランダが付くという典型的なコロニアスタイルの洋館。工事は地元の大工と推測、和も入っているが洋風意匠もこなし、なにより120年経ても現役なのには驚く。



金沢市飛梅町3-31
☎076-222-5740
営/9:30~17:00
休/年末年始、
展示替え期間

金沢くらしの博物館

国重要文化財(平成29)、
市指定文化財(昭和49)、
県有形文化財(平成11)
国明治32年(1899)山口孝吉設計

旧県立二中学校舎は明治中期の洋式中学校の原型的存在であり、屋根に銅板葺きの尖塔を持つことから三尖塔校舎と親しまれてきた。外観の板張りペンキ仕上、縦長の上げ下げ窓、レンガ積基礎の美しさ、構造の堅固さ等、当時の高水準の設計や施工に今でも出会える建築である。

石川四高記念文化交流館

国重要文化財(昭和44)、
金沢都市美文化賞(平成20)
国明治24年(1891)
山口半六、久留正道設計



金沢市広坂2-2-5
☎076-262-5464
営/9:00~17:00
休/年末年始



金沢聖霊修道院聖堂

国市指定文化財(平成18)
国昭和6年(1931) マックス・ヒンデル設計



金沢市長町1-5-30 ☎076-231-1295
営/8:00~18:00
休/年末年始(行事の際は不可)

元はレンガ造の旧第四高等学校の本館である。外観はシンプルなレンガ壁に上枠を軽くアーチ状にした縦長の窓をリズムカルに配し、抑制を効かせながら白や焦茶のレンガをアクセントとしている。レンガの製造から施工まで地元が担ったが、ひびや欠損もなくピシッとした構造や納まりを見せている。全体の端正な美しさとともに当時の力量に感心する。



昭和初期に建てられたロマネスク様式のカトリック教会である。木造平家建てでステンドグラスの丸窓が連なる中央の高い身廊部と縦長窓が付く低い側廊部、そしてチロル風の鐘楼からなる。室内は畳敷きの礼拝席があり、漆塗りや金箔貼りも残っている、木造でのアーチや交又ヴォールトも美しい。



町民文化館

国県有形文化財(昭和51)
国明治40年(1907)長岡平三設計とされる

金沢市尾張町1-11-8
☎076-222-7670
営/9:00~17:00
休/4、10月、夏休み(7/20~8/31)は火曜のみ
上記以外の時期は平日休館(土、祝のみ開館)



元の金沢貯蓄銀行は当時全国的に防火対策で広まった土蔵造で建てられた。従って外観は和風だが、インテリアは洋風銀行で金属格子の窓口の仕切りや大きなアーチ、縦の溝のある付け柱、アカンサス装飾の扉框などがある。こうした和洋混在の建築は近代化の過程での日本の特徴である。

しいのき迎賓館

国金沢都市美文化賞特別賞(平成22)
国大正13年(1924)矢橋賢吉・笠原敏郎設計

金沢市広坂2-1-1 ☎076-261-1111
営/9:00~22:00
休/年末年始



大正11年の関東大震災の教訓もあって県内初の鉄筋コンクリートで建てられた旧県庁舎である。スクラッチタイルによる幾何学的なモダニズムの意匠に見られるように様式主義から離れ、自由となり、また電気暖房や水洗便所などの新技術も入った。県庁舎の正面部分が保存され背面にガラス建築を付加して迎賓館となった。

現代

本多の森ホール

国 中部建築賞(昭和53)、
BCS賞(昭和53)
国 昭和52年(1977)黒川紀章設計

金沢市石引4-17-1
☎076-222-0011
営/9:00~17:00
休/不定休

厚生年金会館として建てられたこのホールは野球場の跡地利用だったのでホームベースが舞台の位置、外野席は建築外周の曲面になっている。更にこの外周部は町家と用水の断面を模し、内外の色彩はモノクロームとするなど、設計者黒川紀章は抑制の効いた金沢の文脈のデザインを採用している。



金沢市文化ホール

国 金沢都市美文化賞(昭和58)、
石川建築賞(昭和57)、中部建築賞(昭和58)
国 昭和57年(1982)
芦原・谷口建築設計共同企業体設計



金沢市高岡町15-1
☎076-223-1221
休/第2、第4水曜



中庭を持つコの字型の建築を対角線で切断し、ずらすことで生まれた隙間を出入の門とした。その結果中庭は玄関ホールとなり、四方の各室へのアプローチが可能となった。そしてホール中央に逆角堆の傘を架け反射光を導き入れており、切断、ずらし、傘などの構成デザインは優れている。

金沢21世紀美術館

国 ベネチア・ビエンナーレ国際建築展示
部門「金獅子賞」(平成16)、金沢都市
美文化賞(平成17)
国 平成16年(2004)
妹島和世+西沢立衛/SANAA設計
金沢市広坂1-2-1 ☎076-220-2800
営/10:00~18:00(金・土曜は20:00まで)
交流ゾーン/9:00~22:00
休/月曜、年末年始



「まるびい」と呼ばれているようにガラスの円盤の中に高さや広さの異なる四角や丸の展示室を散りばめ、その隙間を道路としている。敷地が接する三方に塀がなく、円盤のあちこちに入出口があり、中には自由通路もあり開放性を有している。なじみ薄い現代アートに人々をひきつけたこのプログラムは驚異的な入場者を呼び込み、常識を覆した奇跡の美術館として世界で評価されている。

石川県立 伝統産業工芸館

国 昭和34年(1959) 谷口吉郎設計

元は県立美術館として建てられた。設計者谷口吉郎は国際的な潮流であったモダニズム建築に触発されながらも、日本のプロポーションや素材感覚を取り込んでおり、当作品では兼六園や雪対策や地元素材に配慮するなど立地点の環境や文化が盛りこまれた。穏やかだが確かな存在となっているこの建築から学ぶものは多い。



金沢市兼六町1-1
☎076-262-2020
営/9:00~17:00
休/第3木曜(4月~11月)
毎週木曜(12月~3月)



金沢市立 玉川図書館

国 金沢都市美文化賞(昭和54)、石川建築賞(昭和54)、中部建築賞(昭和54)
BCS建築賞(昭和55)
別館:国登録文化財(平成8)、市指定
保存建造物(昭和59)
国 昭和53年(1978) 谷口吉郎・谷口吉生設計
別館大正2年(1913)

金沢市玉川町2-20
☎076-221-1960
営/火曜~金曜
10:00~19:00
土曜・日曜・祝日
10:00~17:00
休/月曜



金沢市大和町1-1
☎076-265-8300
営/9:00~21:00



緑の公園の中にコルテン鋼とガラスの箱をひっそりと置き、その箱にバチ状の中庭をくり抜き2つの部分に分け、一方を2層吹き抜けの閲覧と開架の広い空間とし、他方を資料室、教室、事務室などの2階建てとした。この形態操作によるプランニングは秀逸である。なお、レンガ建築再利用の付属近代資料館は谷口吉郎が担当しており、当図書館は唯一の父子共同作品である。



金沢市民芸術村

国 グッドデザイン大賞(平成9)、
建築学会作品選奨(平成11)、
事務所棟:有形文化財(平成24)
国 大正末期~昭和初期、平成8年(1996)改築
水野一郎+金沢計画研究所設計

繊維工場跡地の片隅に取り壊しを待っていた倉庫群をたまたま訪れた当時の市長が、再利用すべきと判断し、市民の芸術活動の場にした。美術、音楽、演劇などに活動中の市民も計画に参加し、365日24時間使用可の運営も市民が担うことから驚異的な利用率を生んだ。そうした成果に対して、建築が初めてグッドデザインの大賞を受賞した。



もてなしドームと鼓門

国 世界で最も美しい駅14駅(平成23)、
世界で最も素晴らしい駅ベスト10(平成25)、
金沢都市美文化賞(平成17)
国 平成17年(2005)トデック+白江建築研究所設計

金沢市木ノ新保町1-1



駅前広場は一般的にクルマ交通の結節点だが、金沢は人間中心の広場とした。そして雨雪が多いゆえに広場にもてなしの傘であるアルミドームを架け、ゲート鼓門で街へつなげた。またこの広場は旧市街地―駅―港という都市軸の完成や北陸新幹線開業を記念した交流拠点の整備でもあった。

鈴木大拙館

国 金沢都市美文化賞(平成24)、
BCS賞(平成27)
国 平成23年(2011) 谷口吉生設計

金沢出身の仏教哲学者鈴木大拙に出会う館。訪れる者は狭く長い廊下や展示室を歩むことで気持ちが静まり、広い水庭の思索空間に至って心が開かれ、自問自答を始める。建築で禅や哲学を語るとは至難だが、大拙館では多くの人が空間や景観や音の持っている力で思考が促されることを体験する。

